

会場いっぱいに笑顔の輪 校友会定時総会



▲抱負を述べる小林会長



▲久岡育友会長の発声で乾杯



▲山下理事長(中央)を囲んで

03年度(平15)専修大学校友会定時総会(小林清会長)が、6月22日午後1時から東京・千代田区のホテルグランドパレスで開催された。

総会には、この日のために全国から校友やその家族、また来賓や体育会など学生諸団体の代表400人が集い、旧交を温めた。

スウィングジャズ研究会の懐かしい演奏が流れるなか、河本雄三校友会総務部長の司会ではじまり、グリークラブのリードで校歌を斉唱、物故した校友に黙祷を捧げて開会した。

はじめに、三選された小林会長があいさつし、山下徳夫理事長、出牛正芳学長、小林陵二石巻専修大学長がそれぞれ祝辞を述べた。

叙勲褒章受章者6人の紹介があり、それぞれに校友会から記念品が贈呈されたあと、特別ゲストとして今春四代目河原崎権十郎の名跡を襲名した校友の歌舞伎俳優、坂東正邦さん(昭56文)が舞台の合間を縫って駆けつけ、歌舞伎への情熱と在学時代の思い出などを披露した。

このあと今年度事業計画、新役員紹介などが報告され、満場の拍手で承認。久岡清太育友会長が乾杯の音頭をとり、懇親会に移った。

アトラクションでは、スウィングジャズ研究会の演奏や、グリークラブ&フェニックスグリークラブの合唱を楽しみながら、会場は各所で再会を懐かしみ、旧交を温める笑顔の輪が広がった。

この間、体育会優秀選手の紹介が行われ、各選手の活躍の報告に会場からは大きな声援と拍手が起こっていた。最後は全学応援団・チアリーダーの演技と応援歌の熱唱に包まれ、別れを惜しみながら校歌を斉唱して閉会した。

[7月15日/ニュース専修5面]

専大校友を訪ねて

国際競技会で活躍するライフセーバー(東京消防庁勤務・消防士) 本多 辰也さん
(平12・商)



ライフセービングの魅力にとりつかれ、内外のビック競技会に出場し好成績を収めている。本業は消防士。「将来は国際救助隊員として活躍したい」と夢が膨らむ。

茨城県東洋大附属牛久高から専大商学部に入學した。中村友保ゼミで学んだこと。学友と銭湯に通ったこと。朝は「学食のおばちゃん」にあいさつしてから講義に出席したこと…。「専大での思い出はたくさんあって語り尽くせません」。

最も大きかったのが、サーフライフセービング愛好会に入部したことだ。水難事故防止、救助ボランティアとしての役割に加え、泳力、救助技術を磨き、競技会に出場することでスポーツとしても楽しめる面白さに夢中にな

った。夏は伊豆の今井浜海岸でボランティア活動。人と人がふれあう素晴らしさも知った。

大学最後の春休み、シドニーのライフセービング世界大会で、本場の豪ライフセービング世界大会で、本場の豪ライフセービング界の大御所ミック・ディベタ氏と出会った。「彼から言われた『Always next time』(失敗を恐れるな。また次がある)を常に胸に刻んでいます。」

卒業後、豪ゴールドコーストのボンド大学に語学留学しながら豪ライフセービングの資格を取り、ディベタ氏がコーチをしているノースバレークラブで半年間、活動した。帰国後、念願の東京消防庁に入庁。品川消防署に勤務する一方、国際競技会にも果敢にチャレンジ、めきめき力をつけていった。ビーチフラッグス(BF)とビーチスプリント(BS)を得意とし、全日本選手権のBSで2年連続優勝。01年の全米選手権ではBFで優勝。ライフセーバーあこがれの全豪選手権には2000年から3年連続出場、日本人初の2年連続入賞(BF)を果たした。今は来年9月、イタリアでの世界大会出場に向け、意欲を燃やしている。

「ライフセービングと出会って世界が広がりました。活動は生涯、続けていきます」

[7月15日/ニュース専修5面]